



市立三次中央病院 緩和ケアセンター主催
備北緩和ケア月例公開研修会④《通算第29回》

● 日時：平成30年7月6日（金）
18:30～19:50

● 会場：市立三次中央病院
健診センター2階 大講堂

● 演題：
続・苦痛のサインを見逃さない
緩和ケアの知識と基本技術

— 病院／地域における難渋事例への対応 —

● 演者：山下 慈 先生
青森県立中央病院緩和ケアセンター サブマネージャー
がん看護専門看護師 緩和ケア看護認定看護師

＜演者からのメッセージ＞

青森県立中央病院では、がん患者さんの痛みやつらさをスクリーニングし、その結果をもとに緩和ケアチームを始めとした院内の多職種が真摯に対応することを大事にしています。がんによる苦痛はもちろんのこと、がん治療に伴う苦痛、その他の苦痛、いずれの苦痛であっても、それらを必ず掬いあげる体制を整えなければ、痛みやつらさからの解放は成し得ません。今回は、患者さんが私たちに教えてくれる苦痛のサインを見逃さないヒントについてお話ししましょう。皆様にもまたお会いできることを楽しみにしております。

＜講師略歴＞

山下慈（やました いつく）：

秋田県出身。1998年日本赤十字秋田短期大学卒。1999年青森県立青森高等看護学院卒（保健師・養護教諭取得）。2000年青森県立中央病院入職。2007年東北福祉大学福祉心理学科卒業（認定心理士取得）。2009年広島大学大学院先駆的看護実践支援センター卒。2010年緩和ケア認定看護師資格取得。同年、青森県立保健大学大学院博士前期課程看護学研究科卒。2011年厚労科研がん臨床研究事業「がん性疼痛治療の施設成績を評価する指標の妥当性を検証する研究（的場班）」の研究協力者。2014年-2016年厚労科研がん政策研究事業「緩和ケアセンターを軸としたがん疼痛の評価と治療改善の統合に関する研究（的場班）」の班員として「がん疼痛等の苦痛患者抽出のための緩和ケアチーム看護師等によるスクリーニングと介入プログラムの開発」を担当。2017年岩手県立大学大学院看護学研究科成人看護学がん看護学専門看護師コース卒。

